

## 「自分らしく」生きる！！

学校所在府県：京都府

学校名：京都市立紫野小学校

名前：樋上 育子（全教科）

実践教科：学級活動・総合的な学習の時間

指導時数：6時間

対象学年：小学校5年生

対象人数：36人（1クラス）

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

「当たり前がちがい」「あらゆることへの感謝の気持ち」を痛感した。また、「幸せ」って何だろう。そう考えさせられた10日間だった。子どもたちと日々接する中で、誰もが自分らしくキラキラとした笑顔で幸せに生きることができればと思いをもっている。それは、目の前の子もだけではない。そうなるために、自分にできることはないかということが教師海外研修の志望動機でもある。現地での研修を経て感じたことを、以下3点にまとめて述べる。

1点目は、「相手の問題解決」である。現地で訪れた施設等でよく耳にしたのが“ネパール流”だ。押しつけではなく、自国の利益のためではなく、相手が何を望んでいるかを知り、それを解決していくことが大切であると感じた。ただ、相手がどうすればそれを問題と感じるかということに課題があるような気がした。価値観の相違はあるが、まず、相手を知り、認めていくことが先決だと感じた。単なる支援ではなく、相手の自立を考えた協力が重要だと思う。また、それが「持続可能」な方法なのかも大切な視点である。だからこそ、私自身が「知り」続け、それを伝えていくことが大切だと考える。

2点目は、「声をあげていくこと」である。問題に対して「〇〇したい」と声をあげる。そうすることで現状が変わるということを耳にした。これもまた、自分自身が生きていくうえでも大切なことだと感じた。

3点目は、「心の豊かさ」である。ホームステイプログラムへの参加は、ネパールでの10日間の中でも忘れられないものになった。そこには「人を思いやるあたたかさ」が常にあった。人と関わる上でとても大切な心を改めて感じた。「豊かさ」を問い直すきっかけにもなった。

最後に、事前研修から共に過ごし、考えを共有できる仲間ができたことに感謝したい。

### 2. カリキュラム

#### (1) 実践の目的・背景

本校5年生が行う総合的な時間「愛あいタイム」には2つの大きな柱がある。1つは「キャリア教育」、もう1つは「防災」である。そこに私が今回参加させていただいた「ネパール」で学んだ教師海外研修のことを加えたいと思い、表題と同様の『「自分らしく」生きる!!』という全70時間の単元を構成した。総合的な学習の時間では、地域教材の開発が欠かせない。「働く」「地域」「ネパール」をつなぐもの、それを「災害」ととらえた。ネパールは、2015年に起こった大地震の爪痕が未だ残っている。校区にある船岡山も、特別警戒区域に指定されている。「もしも」の時に、命を守るためにすべきことは何だろうか。一人ひとりが「人のために」できることはないだろうか。地域、ネパールで「働く」方の思いを聞く中で、そんな思いを高めてほしいと願う。そして、実際に自分たちが「学校のために」計画した避難訓練を校内で行う予定である。また、様々な「働く」人に出会い、話を聞く中で、この学習が自らの生き方を見つめ、新たな自分をつくる礎になればと願う。

そして、ネパールに出会うことで、自分たちの当たり前は当たり前ではないことに気付く目もったり、世界にはいろいろな国があると知ったりしてほしい。人に関心をもつ、違いを認め合うなど、日々の生活をより楽しく、より自分たちらしくいられる環境を自らの手でつくってほしい。

## (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 時限目</b> ネパールって どんな国だろう① *ネパールに関する基礎知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネパールではいていた靴の汚れの原因を予想する。</li> <li>●提示した4枚の写真からネパールの様子について考える。</li> <li>●写真からわかることを整理しながら、「ネパールって〇〇な国だ!!」という言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界地図</li> <li>●ネパールの写真</li> <li>●ワークシート</li> </ul>
<b>2 時限目</b> ネパールって どんな国だろう② *1時限目とは異なった角度からネパールを学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●提示した4枚の写真からネパールの様子について考える。</li> <li>●写真からわかることを整理しながら、「ネパールって〇〇な国だ!!」という言葉でまとめる。</li> <li>●写真から児童が予想したことを確かめる画像をもとに、教師の体験を話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネパールの写真</li> <li>●ワークシート</li> </ul>
<b>3 時限目</b> 「幸せ」って どういうことだろう *ネパールをいろいろな角度からとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今までの学習したネパールのイメージを話す。</li> <li>●なぜ「私がネパールにもっといたかった」かを予想し、写真をもとにその理由を話す。</li> <li>●「幸せ」とはどういうことが、自分たちの生活の中から考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●写真</li> <li>●ワークシート</li> </ul>
<b>4 時限目</b> 2枚の写真から 共通点を見つける *「地域」と「ネパール」を結ぶ共通点が「災害」であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2枚の写真から気付いたことを話す。</li> <li>●「地域」と「ネパール」の共通点を見出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●写真</li> <li>●ワークシート</li> </ul>
<b>5 時限目</b> ネパールの地震と その後について知る *ネパールの地震の概要を知り、地震前と地震後の様子を比較する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダルパールスクエアの地震前、地震直後、地震発生2年後を比べ、気付いたことを話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●写真</li> <li>●ワークシート</li> </ul>
<b>6 時限目</b> ネパールの防災のために 働く方の思いを知る *ネパールで青年海外協力隊員として働く方の思いを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネパールで青年海外協力隊員として働く方の思いを、手紙を通じて知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●写真</li> <li>●手紙</li> <li>●ワークシート</li> </ul>

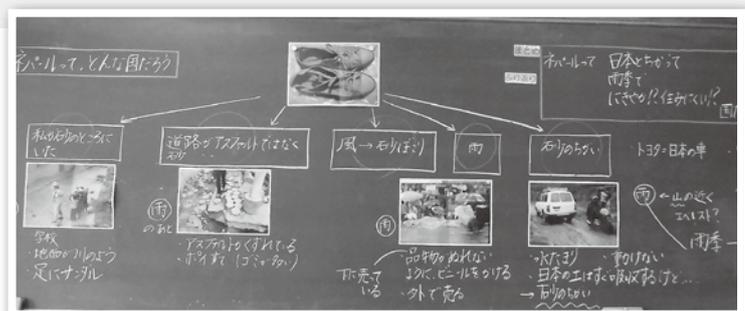
## 3. 授業の詳細

### 1 時限目：ネパールって、どんな国だろう①

ねらい…ネパールに関する基礎知識を学ぶ。

#### ◆内容◆

- ①ネパールで履いていた泥のついたスニーカーが汚れている理由を考える。
- ②その理由を4枚の写真から予想する。(写真から気付いたことをワークシートに記入。その後、グループ学習で気付きを交流。)
- ③予想を発表し、その答えを知る。(全体交流)



子どもたちの考え①

## ！ココがポイント

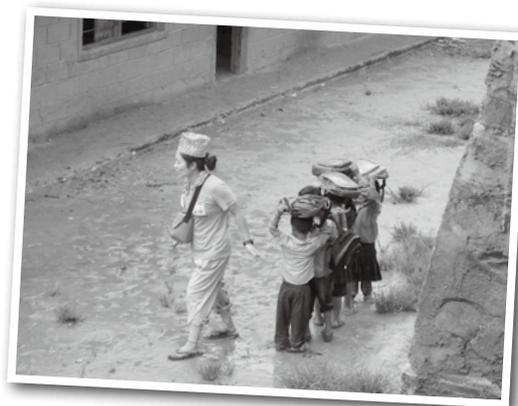
児童が考えるであろう答えを予想し、それに関する写真を準備する。予想が解決できるような問題解決学習を行う。

## 児童の反応

- ▶ 汚れた靴を見せたことから、様々な予想ができた。「モノ」の与える印象は大きい。

## 児童の感想

- ▶ 世界にはいろいろな国があるんだなと思った。
- ▶ ネパールの生活は不便なところもあるけれど、ネパールにしかないものや魅力的なところもあると思った。
- ▶ 住む場所が違って、同じ子どもなのに、なんだかかわいそうというよりも自分たちが得しているような変な気持ちになった。
- ▶ ネパールは日本と違って、雨が多かったりして大変な面もあるし、アスファルトも崩れて歩きづらそうで、夜などに小さい子が通ると危険なので、私たち日本人にもできることはないかと考えた。
- ▶ ネパールがあまり発展していないのではなく、日本がいろいろなものが発展していると思った。理由は、きっとネパールの他にも学校や道路が整っていない国があると思ったからだ。



雨の中・・・

◆所感◆ 本時は、どちらかというとなepalをマイナスと感じるような写真が多かった。舗装されていない赤土の山道（雨の日）をバイクで走る少年・少女の写真、アスファルトが崩れている歩道、雨の中でも路上で物を売る写真、避難訓練をする写真と、子どもたちには驚きを感じるものが多かった。それゆえに、「不便」「日本に生まれてよかった」という意見も出た。しかし、1時間でネパールをとらえられるとは思えないので、次時に異なる側面からのアプローチを行う。

## 2時限目：ネパールって、どんな国だろう②

ねらい…ネパールに関する基礎知識を1時限目とは異なった角度から学ぶ。

### ◆内容◆

- ① 4枚の写真を提示し、そこからわかること、予想されることを考える。（写真から気付いたことをワークシートに記入。その後、グループ学習で気づきを交流。）
- ② 予想を発表し、その答えを知る。（全体交流）

## ！ココがポイント

私自身が考えたネパールの特徴的な写真を準備した。1時限目とは異なる角度からのものを提示することで、ネパールの様々な面をとらえられるようにした。写真の力はすごいもので、「目で」多くのことを感じていた。



授業の様子



ホームステイ先で

## 児童の感想

- ▶ 私たちの暮らしでは当たり前のことが、ネパールでは特別だったりするので、国によって暮らし方はずいぶんかわることがわかった。
- ▶ 衣装や赤い点（ティカ）をつけるのも伝統文化だし、料理を手で食べたり床に座って食べたりするのも昔からずっと続いているから、文化を受け継いでいる国だと思った。
- ▶ 日本とは真逆の生活をしているけれど、ネパールの人たちは「もっと豊かな生活をしたい!!」と思っているのか、「ここは平和で豊かだ!!」という思いでいるのかを知りたい。
- ▶ 先生の話聞いて、とてもやさしい人がいることがわかった。

◆所感◆ 前時とは異なり、ネパールでのホームステイの写真を提示した。人の生活・文化に関するものを中心に出すことで、子どもたちの受けた印象にも少し変化があった。インフラの未整備に目がいきがちだったが、受け継がれる文化・ホストファミリーから受けた心のあたたかさなど、プラスに感じる面も増えてきた。話したいことが山のようにある中から、本時気付いてほしかった「文化」「人のあたたかさ」に絞って話すのは難しかった。プラスの要素を加えたつもりであったが、まだマイナスの印象がぬぐえないような感想が出てきたので、急遽、予定にはなかった3時限目を加えた。

## 3時限目：幸せって、どういうことだろう

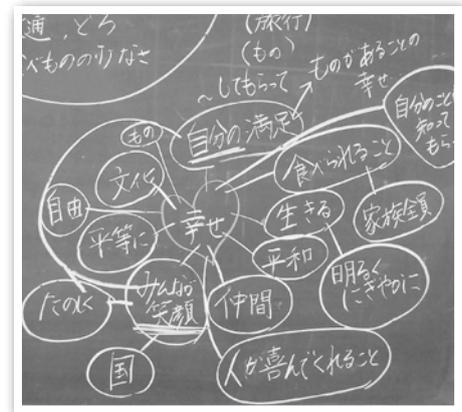
ねらい…ネパールをいろいろな角度からとらえ、「幸せ」とは何か考える。

### ◆内容◆

- ① 「幸せ」という言葉から想像することを、ウェビングマップで広げ、発表する。
- ② 前時までの写真を提示し、ネパールから受けた印象を話す。
- ③ 私が「もっとネパールにいたかった」理由を、今までの授業から想起して考え、その答えを知る。
- ④ 改めて、「幸せ」とはどういうことか考え、本時をふり返る。

### ！ココがポイント

私を感じた「もっとネパールにいたかった」という思いを伝えることで、ネパールに対するプラスの思いが出た。



幸せって・・・

## 児童の感想

- ▶ 「何かあるから幸せ」だと思っていたけど、よく考えてみると「人が喜んでくれる」や「自分たちに誇りをもてる」など、物ではないことがわかった。そして、誰かを見たり聞いたりするだけでマイナスととらえるのではなく、関わってみて少しでもプラスをとらえられる人になりたい。
- ▶ どの国でも、プラスのことはいっぱいあるとわかった。
- ▶ ネパールの「幸せ」はみんなが笑ってくれたり喜んだりしてくれたりすることではないかと思った。

◆所感◆ 本時で「工夫・努力する」「人のために」ということが出てきたことで、プラスの印象が変わった。ネパールに関わらず、自分たちが生きていくときに、見た目や噂で判断するのではなく、自分が関わって判断することが生きざればいいなと思う。導入時に考える幸せは「自分のため」ということが目立ったが、最後に考えた時は、「みんなが笑顔になること」など、人に関することも出てきた。



## 6時限目：ネパールの防災のために働く方の思いを知る

ねらい…ネパールで青年海外協力隊員として働く方の思いを考える。

### ◆内容◆

- ① 青年海外協力隊の隊員として働いておられる吉積先生からの手紙を読む。
- ② その手紙から、吉積先生が働くときに大切にしている思いを考える。  
(1人学び → グループ交流 → 全体交流)

### ! ココがポイント

1人学びで考えたことをグループで交流し、KJ法でまとめる。カテゴリー化することで働く思いを可視化できる。また、1人ではわからなかったこともグループ交流により考えが深まっていく。



1人学び

### 児童の感想

▶ 吉積先生は、ネパールの子どものため、ネパールの未来のために働いていることがわかった。少しでもわかりやすい授業をして、何か起こっても自分たちの力でやっていけるようにと考えていることがすごいと思った。



グループ交流

◆所感◆ 吉積先生にご協力いただき、手紙形式で思いを伝えていただけたことで、本時の内容が充実した。ネパールの様子や考え方にも触れていただけたことで、遠い国のことをより身近に感じたように思う。“自分たちの考えた働く思いを確かめたい”という子どもたちの思いから、授業の内容を吉積先生に再度見ていただき、それに対する返信もいただいた。ボランティアとして、日本人として「ネパールの人ため」に働く吉積先生の努力・苦労・工夫に触れられたことが、子どもたちの今後につながってほしいと考える。

## 4. 成果

子どもが資料から疑問を抱き、それを解決していこうとする授業の形はつくることができた。実践した教科が学活と総合的な学習の時間と2つの分野に及んだが、それをつなげるような資料を提示することで、ネパールのことも地域のことも結びつけて考えることができた。「働く」ということを軸に、いろいろな分野の方のお話を聞けたので、子どもたちも考えが深まっていたように思う。これも、今回の教師海外研修の参加なくしてはつくりあげられないものだった。ご協力いただいた方に感謝の気持ちでいっぱいである。私たちがネパールで行った防災教育の中で歌ったネパール語の「花は咲く」を、校内の学習発表会でもネパール語の歌詞を加え、全校児童の前で発表した。今後も、防災について自分たちのできることを考え、展開していきたいと思う。

## 5. 課題

伝えたいことが多すぎて、資料を厳選したり、話の内容を精選したりするのが難しかった。何を目的にその授業を展開するのかを教師自身もつことが重要だ。今回の学習で終わらず、いろいろな教科・領域で今回の学びを今後生かし、継続していくことが必要であると思う。

### 参考資料

・「ネパール 画像検索」